

佐賀大学「三世代を支援し続ける佐賀大学男女共同参画推進事業」

【これまでの男女共同参画事業】

平成 21～23 年度の「女性研究者支援モデル育成事業」における「三世代サポート型佐大女性研究者支援」終了後は、女性研究者支援のみならず、子育て中の男性研究者、また学生、職員も対象とした幅広い男女共同参画推進事業を展開している。全学組織である「男女共同参画推進委員会」のもとで3本柱である「ワーク・ライフ・バランス(WLB)支援部門」「キャリア支援・女性研究者支援部門」「意識啓発・広報部門」を主軸とし活動を進めている。学内の各部局における取組も発展しており、佐賀県、佐賀市その他の地域連携も含めた県内の男女共同参画も牽引している。

各部門の役割

- ◆ WLB 支援部門：①育児環境整備、病児保育等の情報提供、②介護支援、等
- ◆ キャリア支援・女性研究者支援部門：①学部生、大学院生へのロールモデルの提示などのキャリア支援、②女性の教員・大学院生増加及び幹部職員等への女性の登用増加への取組、③研究補助員の配置等の研究支援及び研究支援体制充実のための取組、④メンター制度の導入の検討、等
- ◆ 意識啓発・広報部門：①ウェブでの広報、②ニュースレターの発行、③意識啓発講演会等の開催、くるみんマークの活用、等

これまでの活動の成果

平成 21～23 年度の事業実施中には女性研究者の割合が目標値の 15%に届かなかったものの、平成 25 年には女性研究者比率が 15.9%に、平成 26 年には 16.9%に達した。また「子どもの看護休暇」等のワーク・ライフ・バランス支援のための制度の利用者数は数段に伸びた。これは、研究補助員制度、病児・病後児保育などの育児支援、意識啓発・向上のためのこれまでの成果の表れと言える。佐賀大学は平成 24 年より次世代育成支援対策推進法に基づく「子育てにやさしい企業」(くるみん)の認定を受けており(佐賀県内の事業所としては3番目)、地域における男女共同参画の牽引ともなっている。

【平成 25～26 年度の男女共同参画推進室の主な活動】

研究補助員制度、キャリア支援に関する講演会、ミニ・ロールモデルの作成、オープンキャンパスでの女子高校生への啓発活動、中学生への男女共同参画に関する授業実施、ウェブやニュースレターでの広報活動、学生や職員(管理職含む)向けの男女共同参画関連の授業や研修の実施等

【今後の主な活動予定】

- 佐賀県男女共同参画センターと共同で実施する学生啓発事業
- 大学センター入試時の一時託児
- 女性職員のキャリアアップに関するイベント
- ニュースレターの作成 等

【連絡先】 佐賀大学 男女共同参画推進室

TEL: 0952-28-8393 FAX: 0952-28-8890 E-mail: gender@mail.admin.saga-u.ac.jp

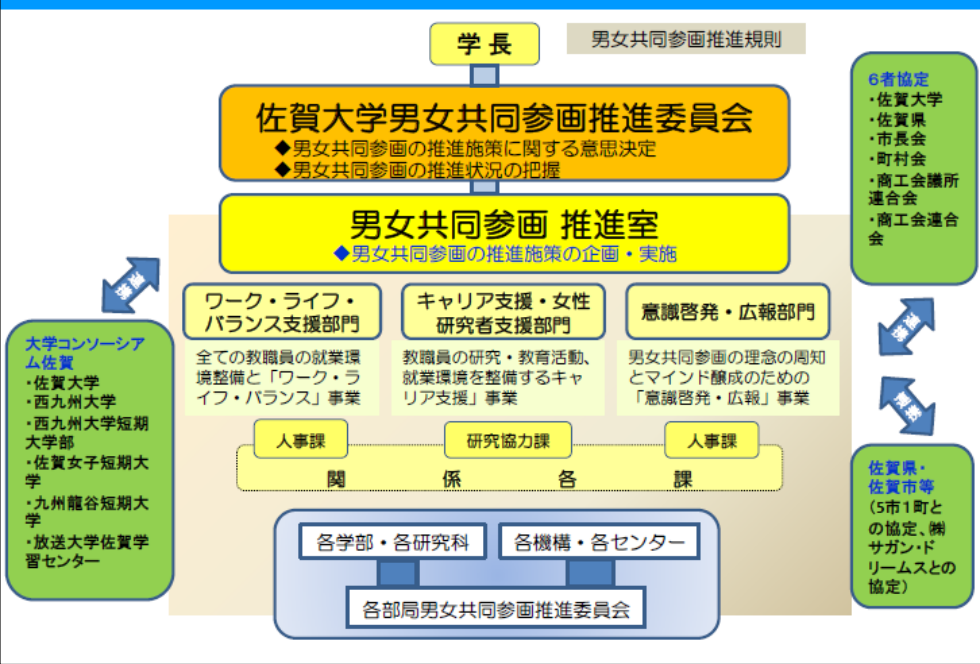
URL: <http://www.saga-u.ac.jp/geo/index.html>

三世代を支援し続ける佐賀大学男女共同参画推進事業



平成21～23年度の「女性研究者支援モデル育成事業」における「三世代サポート型佐大女性研究者支援」終了後は、女性研究者支援のみならず、学生、全教職員を対象とした男女共同参画推進事業を継続している。全学組織である「男女共同参画推進委員会」のもとで3本柱である「ワーク・ライフ・バランス(WLB)支援部門」「キャリア支援・女性研究者支援部門」「意識啓発・広報部門」を主軸とし活動を進めている。学内の各部局における取組も発展させながら、また佐賀県、佐賀市その他の地域連携も含めた男女共同参画を推進している。

佐賀大学男女共同参画推進体制



各学部の取組

●医学部
教職員を対象としたFDや講演会の実施。アンケート実施、分析、等

●工学系研究科
卒業生OGや他大学の女性研究者によるミニ講演会等の実施、等

【学生向け】

- キャリア講演会の実施
- 全学対象の授業「男女共同参画とジェンダー」開講
- 工学系研究科「いま、理系女子(リケジョ)がカッコいい！」(研究者編、公務員編) etc.

【様々な活動】

- 子育て・介護中の女性・男性研究者支援のための補助員制度の継続
- 職員研修、管理職の会議等の中で男女共同参画に関する講義実施
- 各部局の男女共同参画推進委員会、その他学内の委員会、図書館等との連携
- 男性教員による子育てについてのランチセミナー

●農学部
高校への出前講座、交流会、等

【地域連携・地域貢献】

- ・佐賀県男女共同参画センター(アバンセ)との連携にて客員研究員制度を設け、調査研究・研究指導を行っている。
- ・佐賀大学公開講座(武雄市との連携)にて男女共同参画に関する講義を実施。
- ・佐賀市男女共同参画推進課と連携し、企画に若者の声を取り入れる等の活動実施。

●文化教育学部
パンフレット作成、女子学生・女性教職員の意見交換会の実施、等

●経済学部
ミニ講演会の実施、等

【継続事業の成果】

- 女性研究者比率 UP!
「女性研究者支援モデル育成事業」期間中(H21-23)に達成目標として女性研究者としての比率13.6%から15%以上にする事を掲げていた。 ⇒ 平成25年に15.9%、平成26年には16.9%に!
- ワーク・ライフ・バランス向上中!
子どもの看護休暇取得 H22年のべ54名 → H25年 395名、7.3倍に!
(うち男性教職員の休暇取得数 H22年 26名→87名と、3.3倍に)